

ラッサ熱等の一類感染症の 患者発生を経験した国から学ぶ 感染症危機管理について

日時：平成21年1月22日（木）14:00～17:00

場所：国立感染症研究所

戸山庁舎管理棟3F 国立健康・栄養研究所会議室

プログラム:

今回のシンポジウムには、実際にラッサ熱やマールブルグ病の輸入例が発生し、その対応にあたった経験を持つドイツ(ラッサ熱患者が発生)、及びオランダ(マールブルグ病患者が発生)の専門家を招聘しました。実際の対応について具体的な紹介をいただき、日本での疑い患者発生、病原体診断、患者への医療提供、接触者調査、国民への情報提供等の、一連の感染症危機管理について関係者の理解を深めていただきたく企画いたしました。

I. 日本における出血熱疑い患者発生状況等の紹介 14:00-14:15

倉根 一郎(国立感染症研究所 ウイルス第一部部長)

II. 諸外国の患者発生時の対応の実際例

1. ドイツにおけるラッサ熱患者発生時の対応と事前準備 14:15-15:15

レネ・ゴチャック博士(ドイツ フランクフルト市保健局感染症対策部 部長)

2. オランダにおけるマールブルグ病患者発生時の対応と今後の取り組み 15:15-16:15

アウラ・ティーメン博士(オランダ 感染症センター 感染症対策部 副部長)

III. 意見交換 16:15-17:00

司会:西條 政幸 ウイルス第一部室長



事務局
国立感染症研究所
バイオセーフティ管理室
杉山 和良
tel 03-5285-1111 ext.2420, 2426
tel/fax 03-5285-1184 (直通)